薬学部履修要項（2006～2017年度生）

（2015～2017年度生）

Ⅰ　授業科目の構成 …… 13

Ⅱ　単位の計算方法 …… 13

Ⅲ　卒業に必要な単位数 …… 14

Ⅳ　進級に必要な要件 …… 14

Ⅴ　進級，卒業の判定及び留年者の取扱い …… 15

Ⅵ　学修の達成目標 …… 15

（2007～2014年度生）

Ⅰ　授業科目の構成 …… 17

Ⅱ　単位の計算方法 …… 17

Ⅲ　卒業に必要な単位数 …… 17

Ⅳ　進級に必要な単位数等 …… 17

（2007～2016年度生）

Ⅶ　履　修　登　録 …… 22

Ⅷ　授　　業 …… 23

Ⅸ　学　籍　異　動 …… 24

Ⅹ　試　　験 …… 25

Ⅺ　単位の修得及び学業成績 …… 28

Ⅻ　単位互換制度 …… 29

XIII　文部科学大臣が定める学修による単位認定 …… 30

XIV　海外研修制度 …… 30

XV　クラス担任…… 31

XVI（2015～2017年度生）卒業論文実習，実務実習及び共用試験 …… 31

XVII（～2014年度生）卒業論文実習，実務実習及び共用試験 …… 32

この履修要覧は入学年度（新入生）にのみ配付いたします。新入生の皆さんは，この履修要覧を卒業するまで大切に保管してください。（※紛失しても再配付はできません。）

この履修要覧には，学則等の規則や，本学学生として在学中に必要な事項が記載されていますので，よく読んでください。

なお，履修要覧の記載に変更が生じた場合は，掲示等でお知らせします。

就実大学・就実短期大学
教務課
〒703-8516
岡山市中区西川原1－6－1
TEL：086－271－8120
FAX：086－271－8119
E-mail：kyoumu@shujitsu.ac.jp

平成29年４月１日発行

薬学部履修要項（2015～2017年度生）

授業の履修に関して，学則に明示されていない細目は，この履修要項に定めるところによる。

Ⅰ　授業科目の構成

1．本学薬学部において開設する科目は，次のとおりである。

⑴　総合教養教育科目

⑵　外国語教育科目

⑶　専門教育科目

①薬学総合教育科目

②物理系薬学科目

③化学系薬学科目

④生物系薬学科目

⑤衛生薬学科目

⑥医療系薬学科目

⑦臨床系薬学科目

⑧実習科目

⑨アドバンスト科目

2．これらの授業科目は，履修の方法により，次のように分類される。

⑴　必修科目　必ず履修しなければならない授業科目で，この必修科目のすべての単位を修得しなければ，卒業することはできない。

⑵　選択科目　各自が自由に選択し履修する授業科目である。ただし，学則に定める卒業に必要な単位数を充足するように選択履修しなければならない。

Ⅱ　単位の計算方法

1．講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

2．演習及び外国語については，15時間から30時間の授業をもって１単位とする。

3．実験，実習及び実技等については，30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

4．卒業特別研究については，これに必要な学修等を考慮して，10単位とする。

Ⅲ　卒業に必要な単位数

本学薬学部を卒業するためには，所定の科目・単位を次表のとおり修得しなければならない。

区分＼学科	薬　学　科
総合教養教育科目	必修科目　４単位 選択科目　11単位
外国語教育科目	選択科目　６単位
専門教育科目	
①薬学総合教育科目	必修科目　20単位
②物理系薬学科目	必修科目　12単位
③化学系薬学科目	必修科目　12単位
④生物系薬学科目	必修科目　17単位
⑤衛生薬学科目	必修科目　10単位
⑥医療系薬学科目	必修科目　31単位
⑦臨床系薬学科目	必修科目　19単位
⑧実習科目	必修科目　36単位
⑨アドバンスト科目	選択科目　８単位
合　計	186単位以上

Ⅳ　進級に必要な要件

実習科目の不合格者は，原則として進級できない。その他，各学年で下記に示す条件を満たした者でなければ進級できない。

１．１年次で次に示す条件を満たした者でなければ，２年次に進級することはできない。

⑴　１年次終了時において，必修科目の欠単位が６単位以内である者*

＊総合教養教育科目は，４単位以内，薬学総合教育科目は９単位以上，合計13単位が必要。

２．２年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ，３年次に進級することはできない。

⑴　２年次終了時までに，総合教養教育科目の必修科目４単位を修得した者

⑵　２年次終了時までに，総合教養教育科目の選択科目11単位以上を修得した者

⑶　２年次終了時までに，外国語教育科目の選択科目６単位以上を修得した者

⑷　２年次終了時までに，薬学総合教育科目の必修科目７単位を修得した者

⑸　２年次終了時までに，専門教育科目の必修科目の欠単位が６単位以内である者

３．３年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ，４年次に進級することはできない。

⑴　３年次終了時において，必修科目の欠単位が６単位以内である者

⑵　２年次までの必修科目をすべて修得した者

４．４年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ，５年次に進級することはできない。

⑴　４年次終了までの必修科目の単位をすべて修得した者

ただし，４年次終了時に必修科目の不足が２科目４単位以内であれば，休学または長期欠席がなく，累積もしくは当該年度のGPAが1.5以上，かつ薬学共用試験（CBT・OSCE）を合格した場合，教授会において，仮進級を認めることがある。また，４年次後期科目が欠単位となった場合は，５年次に学年が留め置かれることがある。

5．5年次で次に示す条件をすべて満たした者でなければ，6年次に進級することはできない。

⑴　5年次終了時までに，病院・薬局実務実習科目の単位を修得した者（薬学共用試験の不合格者は5年次の病院・薬局実務実習を履修することができないので、注意すること）

⑵　5年次終了時までに，アドバンスト科目の選択科目8単位以上を修得した者

Ⅴ　進級，卒業の判定及び留年者の取扱い

1．進級，卒業の判定は進級及び卒業判定会議で行われ，上記規定により，進級できない者及び卒業できない者は留年となる。なお，学年途中で休学した学生の進級判定は，復学願提出後，3月の進級判定会議で行う。

2．留年者は，留めおかれた学年（前年度）の未修得科目のうち，進級及び卒業に必要な科目をすべて再履修すること。

3．留年者は，進級に必要な未習得科目を再履修の上，なお時間に余裕があり，かつ時間割上で可能な場合には，科目担当教員の了解と教授会の議を経て，次年次に配当されている科目を受講することができる。当該科目を優秀な成績で合格した場合には，単位を配分している学年に進級した場合にのみ，その学期が修了した段階で単位を認定する。

4．病気その他やむを得ない理由により，進級に必要な単位を修得できなかった場合については，進級判定会議において検討し，個別に指導する。ただし，この場合は，仮進級となり，次年度に修得できない場合には留年となることがある。

5．学力劣等により留年となった者が，同一年次に2年間在学し，なお進級又は卒業できないときや，2年次終了までに3年間在学し，なお進級できないときは，3月の進級判定会議の議を経て除籍とすることがある。

Ⅵ　学修の達成目標

学生は，各教科のシラバスに記載している到達目標の内容を80％以上達成する様に努力すること。

2015・2016・2017年度生

（別表１）　各学年における総合教養教育科目（必修）・専門教育科目の単位数及び開講科目数

科　目　分　類	必修/選択	単位数／開講科目数					
		１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次
総合教養教育科目	必修	４／４					
薬学総合教育科目	必修	５／４	２／２	１／１	１／１		11／２
物理系薬学	必修	３／２	８／４	１／１			
化学系薬学	必修	５／３	５／３	２／２			
生物系薬学	必修	２／１	10／５	５／３			
衛生薬学	必修		４／２	３／２	３／２		
医療系薬学	必修		７／４	16／８	８／６		
臨床系薬学	必修			８／５	11／７		
実習科目	必修		２／２	２／２	２／１	20／１	10／１*
アドバンスト教育科目	選択		１／１	８／８	10／10	８／７	
合　　計		19／14	39／23	46／32	35／27	28／８	21／３

*卒業特別研究は４年次に開講し，６年次に単位認定

（別表２）進級・卒業における必要単位数（※14・15頁のⅣ進級に必要な要件を図表化）

科　目　分　類	必修/選択	進級または卒業に必要な単位数					
		１→２年次	２→３年次	３→４年次	４→５年次	５→６年次	卒業時
総合教養教育科目	必修	４以内[注1]	4	4	4	4	4
総合教養教育科目	選択	11		11	11	11	11
外国語教育科目	選択	6		6	6	6	6
教養･外国語科目小計		21		21	21	21	21
薬学総合教育科目	必修	９以上[注1]	7	85[注2]	9	9	20
物理系薬学	必修		40		12	12	12
化学系薬学	必修				12	12	12
生物系薬学	必修				17	17	17
衛生薬学	必修	0			10	10	10
医療系薬学	必修	0			31	31	31
臨床系薬学	必修	0			19	19	19
実習科目	必修	0			6	26	36
アドバンスト教育科目	選択	0	0	0	0	8	8
専門教育科目小計		９以上	47	85	116	144	165
進級・卒業必要単位数		13	68	106	137	165	186

注１：総合教養教育科目は４単位以内，薬学総合教育科目は９単位以上，合計13単位が必要。

注２：２年次までの必修科目をすべて修得すること。

薬学部履修要項（2007～2014年度生）

授業科目の履修に関して，学則に明示されていない細目は，この履修要項に定めるところによる。

Ⅰ　授業科目の構成

1．本学薬学部において開設する科目は，次のとおりである。

⑴　総合教養教育科目

⑵　外国語教育科目

⑶　専門教育科目

2．これらの授業科目は，履修の方法により，次のように分類される。

⑴　必　修　科　目　必ず履修しなければならない授業科目で，この必修科目のすべての単位を修得しなければ，卒業することはできない。

⑵　選択必修科目　原則として，全て履修しなければならない授業科目である。ただし，この科目の中から，別項に示す進級及び卒業に必要な単位を修得しなければならない。

⑶　選　択　科　目　各自が自由に選択し履修する授業科目である。ただし，学則に定める卒業に必要な単位数を充足するように選択履修しなければならない。

Ⅱ　単位の計算方法

各授業科目の単位数は，次の基準により計算するものとする。

1．講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

2．演習及び外国語については，15時間から30時間の授業をもって１単位とする。

3．実験、実習及び実技等については，30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

4．卒業論文実習については，これに必要な学修等を考慮して，５単位とする。

Ⅲ　卒業に必要な単位数

本学薬学部を卒業するためには，学科所定の科目・単位を次表のとおり修得しなければならない。

区分＼学科	薬　学　科
総合教養教育科目	必 修 科 目　４単位 選択必修科目　４単位 選 択 科 目　13単位
外国語教育科目	選 択 科 目　６単位
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目　48単位 選択必修科目　107単位 選 択 科 目　８単位
合　　計	190単位以上

Ⅳ　進級に必要な単位数等

1．各学年で開講する科目数と単位数を別表１に示す。上級学年へ進級するためには，各年次において，別表２に示す必要な単位を修得しておくこと。（別表１及び２は入学年度によって異なるので注意すること。）

２．進級，卒業の判定及び留年者の取扱い

⑴　進級，卒業の判定は進級及び卒業判定会議で行われ，上記規定により，進級できない者及び卒業できない者は留年となる。なお，学年途中で休学した学生の進級判定は，復学願提出後，３月の進級判定会議で行う。

⑵　留年者は，留め置かれた学年（前年度）の未修得科目のうち，進級及び卒業に必要な科目をすべて再履修すること。

⑶　留年者は，時間に余裕があり，かつ時間割上で可能な場合には，前年度以前の未修得科目を再履修することができる。

⑷　留年者は，⑵，⑶の未修得科目を再履修の上，なお時間に余裕があり，かつ時間割上で可能な場合には，科目担当教員の了解と教授会の議を経て，次年次に配当されている科目を受講することができる。当該科目を優秀な成績で合格した場合には，単位を配分している学年に進級した場合にのみ，その学期が修了した段階で単位を認定する。

⑸　病気その他やむを得ない理由により，進級に必要な単位を修得できなかった場合については，進級判定会議において検討し，個別に指導する。ただし，この場合は仮進級となり，次年度に修得できない場合には留年となることがある。

⑹　留年となった者については，１年間の勉学状況を厳重に観察した上，進級判定会議において成業の見込みがないと認めたときには，退学を勧告する。

2011・2012・2013・2014年度生

（別表１）各学年における総合教養教育科目と専門科目の単位数及び開講科目数

科目分類	単位数／科目数					
	１年次	２年次	３年次	４年次	５-６年次	卒業要件単位
総合教養教育科目　（必修）	３／２	１／１				4
総合教養教育科目　（選択必修）	６／３					4
総合教養教育科目　（選択）	112／58	６／３				13
外国語教育科目　（選択）	26／26					6
薬学導入・総合科目　（必修）	３／２	０／０	２／２	１／１	６／１	12
薬学専門実習科目　（必修）		４／３	２／２	５／３	25／２	36
薬学導入・総合科目（選択必修）	１／１	１／１	１／１	１／１		3
物理系薬学　（選択必修）	６／３	７／４				11
化学系薬学　（選択必修）	４／２	９／５	５／３			16
生化学系薬学　（選択必修）	２／１	10／５				10
分子生物系薬学　（選択必修）		６／３	４／３	３／２		11
衛生薬学　（選択必修）			７／５	４／２		10
医療系薬学１　（選択必修）		６／３	10／５	６／３		18
医療系薬学２　（選択必修）			10／５	10／５		16
臨床系薬学　（選択必修）			７／４	７／４		12
アドバンスト教育科目　（選択）					23／22	8
合　計	163／98	50／28	48／30	37／21	54／25	190

（別表２）進級・卒業時における必要単位数

科目分類	必修/選択	進級または卒業に必要な単位数				
		1→2年次	2→3年次	3→4年次	4→5年次	卒業時
総合教養教育科目	必修	3	4	4	4	4
総合教養教育科目	選択必修	2	4	4	4	4
総合教養教育科目	選択	9	13	13	13	13
外国語教育科目	選択	4	6	6	6	6
専門薬学教育科目(導入･総合･実習)	必修	3	7	11	17	48
薬学導入・総合科目	選択必修	0	1	2	3	3
物理系薬学	選択必修	4	9	11	11	11
化学系薬学	選択必修	2	9	16	16	16
生化学系薬学	選択必修	0	8	10	10	10
分子生物系薬学	選択必修	0	4	8	11	11
衛生薬学	選択必修	0	0	5	10	10
医療系薬学１	選択必修	0	4	12	18	18
医療系薬学２	選択必修	0	0	8	16	16
臨床系薬学	選択必修	0	0	5	12	12
アドバンスト教育科目	選択	0	0	0	0	8
合　計		27	42	46	36	39
累積単位数		27	69	115	151	190

2008・2009・2010年度生

（別表１）各学年における総合教養教育科目と専門科目の単位数及び開講科目数

科目分類	単位数／科目数					
	１年次	２年次	３年次	４年次	5-6年次	卒業要件単位
総合教養教育科目　（必修）	３／２	１／１				4
総合教養教育科目　（選択必修）	６／３					4
総合教養教育科目　（選択）	82／42					13
外国語教育科目　（選択）	26／26					6
薬学導入・総合科目　（必修）	３／２	０／０	２／２	１／１	６／１	12
薬学専門実習科目　（必修）		４／３	２／２	５／３	25／２	36
薬学導入・総合科目（選択必修）	１／１	１／１	１／１	１／１		3
物理系薬学　（選択必修）	６／３	７／４				11
化学系薬学　（選択必修）	４／２	９／５	５／３			16
生化学系薬学　（選択必修）	２／１	10／５				10
分子生物系薬学　（選択必修）		６／３	４／３	３／２		11
衛生薬学　（選択必修）			７／５	４／２		10
医療系薬学１　（選択必修）		６／３	10／５	６／３		18
医療系薬学２　（選択必修）			10／５	10／５		16
臨床系薬学　（選択必修）			７／４	７／４		12
アドバンスト教育科目　（選択）					23／22	8
合　計	133／82	44／25	48／30	37／21	54／25	190

（別表２）進級・卒業時における必要単位数

科目分類	必修/選択	進級または卒業に必要な単位数				
		1→2年次	2→3年次	3→4年次	4→5年次	卒業時
総合教養教育科目	必修	3	4	4	4	4
総合教養教育科目	選択必修	2	4	4	4	4
総合教養教育科目	選択	9	13	13	13	13
外国語教育科目	選択	4	6	6	6	6
専門薬学教育科目(導入･総合･実習)	必修	3	7	11	17	48
薬学導入・総合科目	選択必修	0	1	2	3	3
物理系薬学	選択必修	4	9	11	11	11
化学系薬学	選択必修	2	9	16	16	16
生化学系薬学	選択必修	0	8	10	10	10
分子生物系薬学	選択必修	0	4	8	11	11
衛生薬学	選択必修	0	0	5	10	10
医療系薬学１	選択必修	0	4	12	18	18
医療系薬学２	選択必修	0	0	8	16	16
臨床系薬学	選択必修	0	0	5	12	12
アドバンスト教育科目	選択	0	0	0	0	8
合　計		27	42	46	36	39
累積単位数		27	69	115	151	190

2006・2007年度生

（別表１）各学年における総合教養教育科目と専門科目の単位数及び開講科目数

科目分類	単位数／科目数					
	１年次	２年次	３年次	４年次	5-6年次	卒業要件単位
総合教養教育科目　（必修）	３／２	１／１				4
総合教養教育科目　（選択必修）	６／３					4
総合教養教育科目　（選択）	86／44					13
外国語教育科目　（選択）	26／26					6
薬学導入・総合科目　（必修）	３／２	１／１	１／１	１／１	６／１	12
薬学専門実習科目　（必修）		４／３	２／２	５／３	25／２	36
薬学導入・総合科目（選択必修）	１／１	１／１	１／１	１／１		3
物理系薬学　（選択必修）	５／３	８／４				11
化学系薬学　（選択必修）	４／２	９／５	５／３			16
生化学系薬学　（選択必修）	４／２	８／４				10
分子生物系薬学　（選択必修）		６／３	４／３	３／２		11
衛生薬学　（選択必修）			７／５	４／２		10
医療系薬学１　（選択必修）		６／３	10／５	６／３		18
医療系薬学２　（選択必修）			10／５	10／５		16
臨床系薬学　（選択必修）			７／４	７／４		12
アドバンスト教育科目　（選択）					23／22	8
合　計	138／85	44／25	47／29	37／21	54／25	190

（別表２）進級・卒業時における必要単位数

科目分類	必修/選択	進級または卒業に必要な単位数				
		1→2年次	2→3年次	3→4年次	4→5年次	卒業時
総合教養教育科目	必修	3	4	4	4	4
総合教養教育科目	選択必修	2	4	4	4	4
総合教養教育科目	選択	9	13	13	13	13
外国語教育科目	選択	4	6	6	6	6
専門薬学教育科目(導入･総合･実習)	必修	3	8	11	17	48
薬学導入・総合科目	選択必修	0	1	2	3	3
物理系薬学	選択必修	3	9	11	11	11
化学系薬学	選択必修	2	9	16	16	16
生化学系薬学	選択必修	2	8	10	10	10
分子生物系薬学	選択必修	0	4	8	11	11
衛生薬学	選択必修	0	0	5	10	10
医療系薬学１	選択必修	0	4	12	18	18
医療系薬学２	選択必修	0	0	8	16	16
臨床系薬学	選択必修	0	0	5	12	12
アドバンスト教育科目	選択	0	0	0	0	8
合　計		28	42	45	36	39
累積単位数		28	70	115	151	190

Ⅶ　履修登録（2007～2017年度）

１．履修登録上の注意事項

⑴　授業科目の履修は，学則第19条の規定に従って，各年次に履修すべき授業科目を考慮して計画を立てること。

⑵　履修登録単位数の上限は設けない。

⑶　一度登録した授業科目の変更は後期の追加登録及び削除以外許されないので，履修登録の際には慎重に履修計画を立てることが必要である。

⑷　登録した授業科目は，途中で放棄することなく必ず履修し，試験を受けなければならない。途中で放棄したり，試験を受けなかった場合は不合格となる。

⑸　クラス指定のある授業科目は，必ず指定された時間に履修しなければならない。

⑹　特定の授業科目及び特定の教室を使用する授業科目（第二外国語，情報処理，書道，茶道，スポーツ等。総称して「特定科目」と呼ぶ）については，履修人数を制限する場合がある。

⑺　第１年次に配当されている授業科目は，第１年次に履修しなければならない。その他の年次においても同様である。

⑻　各年次とも，下位年次に配当されている授業科目を履修することはできるが，上位年次に配当されている授業科目を履修することはできない。ただし，留年者においては，次年次に配当されている科目の受講を認めることがある。

⑼　同一時限に２科目を重複して登録受講することはできない。

⑽　過年度に，合格点を得た科目を再度登録することはできない。ただし，重複履修可の科目は除く。

２．登録申請並びに手続方法

学生は，後学期履修する授業科目を含め，各年次において単位を修得しようとする授業科目について，各自登録しなければならない。授業科目の登録は，下記の要領に従って年度の当初に行うこと。この登録を怠ると，その年度の授業及び試験を受け単位を修得することができないので十分注意すること。

⑴　年度始めのオリエンテーション（「履修指導」）の際，担当教員から説明を聞き，「時間割表」及び「履修要覧」（授業科目表・履修上の注意）を参照して，各年度に履修しようとする授業科目を決定すること。

⑵　この全授業科目（必修，選択必修，選択，集中）はすべて年度始めのオリエンテーション履修指導時に配付される「履修登録下書き用紙」に記入すること。

⑶　指定された日時に「履修登録下書き用紙」を持参し，情報教室のパソコンを使って履修希望科目の申請をすること（Web履修申請）。

⑷　履修申請した科目について，後日「確認リスト」を配付するので，指定された場所で，履修登録もれや誤りがないかを確認すること。

　１つでも履修登録もれや誤記を発見したら，指定された情報教室のパソコンで訂正すること（後日教務課で再確認）。もし履修登録もれや誤記を訂正しないまま放置しておくと，授業・試験を受けても単位認定されないので注意すること。

⑸　「確認リスト」に間違いがなければ，氏名の右横に印鑑を押して提出。**その後の追加・削除・訂正には一切応じない。**

⑹　後期科目追加登録（削除）希望者は，指定された日に手続を行うこと（詳細は掲示板で伝える）。

《Web履修登録についての操作手順は巻末ページを参照》

Ⅷ 授　　業

１．授業時間

平常の授業は，時間割表に従って次の時間で行われる。

Ⅰ時限　　９：10　～　10：40

Ⅱ時限　　10：50　～　12：20

Ⅲ時限　　13：10　～　14：40

Ⅳ時限　　14：50　～　16：20

Ⅴ時限　　16：30　～　18：00

Ⅵ時限　　18：10　～　19：40

２．休　　講

授業担当者がやむを得ない事情で授業を休講する場合は，事前に掲示により伝達する。休講掲示がなく，始業時より30分以上経過しても連絡のない場合は，教務課へ申し出て指示を受けること。

３．臨時休講　　警報発令の際の取り扱い

午前７時に岡山県岡山地域に暴風警報または特別警報が発令されている場合は臨時に休講とする（大雨警報・洪水警報の場合は休講としない）。ただし，午前10時までに暴風警報が解除された場合は，Ⅲ時限から授業を実施する。

休講となった場合には，後日補講する。

４．欠　　席

⑴　欠席届

授業を欠席する場合は，「欠席届」を授業科目担当者になるべく事前に届け出る。もし，事前に届けられなかった場合は，事後すみやかに届け出ること。

⑵　長期欠席届

７日以上の病気欠席の場合は，医師の診断書を添えて所定の用紙に記入し，教務課に届け出ること。

⑶　公欠届

公欠届は下記の場合に限り，所定の用紙に記入し，教務課に届け出る。

※ただし，補講および集中講義については，原則として公欠は認められない。

①　諸課程の単位修得のための実習期間など。

②　「学校保健安全法」及び「同法施行規則」及び本学規定に定める感染症（別表参照）に罹患した場合。（出席停止期間証明書または診断書が必要）

・下表の感染症と診断された場合には，速やかに教務課まで電話で報告すること。

・**治癒後**に受診機関より「出席停止期間証明書」または「診断書」の交付を受け，授業公欠届（教務課申請用）とともに届け出る。（必ず治癒後に届け出ること。感染拡大を防ぐため，出席停止期間は大学に出てきてはならない）

※「その他の感染」症以外の診断書については病名・出席停止期間の記載があるものに限る。

※［第３種］のその他の感染症は「出席停止期間証明書」（本学様式）に限る。

※授業公欠届（教務課）及び出席停止期間証明書は，履修要覧巻末または学内専用ページ（Web）からダウンロードすること。

感染症についての出席停止期間の基準

学校保健安全法施行規則（平成27年1月21日改正）

感染症の種類		出席停止期間の基準 （以下の基準に基づき、主治医が判断する）
［第１種］	エボラ出血熱	治癒するまで
	クリミア・コンゴ出血熱	
	痘そう	
	南米出血熱	
	ペスト	
	マールブルグ熱	
	ラッサ熱	
	急性灰白髄炎	
	ジフテリア	
	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスに限る）	
	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスに限る）	
	特定鳥インフルエンザ	
	新型インフルエンザ等感染症	
	新感染症	
［第２種］	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	発症した後５日を経過し、かつ、解熱した後２日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻しん	解熱後３日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消えるまで
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主な症状がなくなって２日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
［第３種］	コレラ	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
	細菌性赤痢	
	腸管出血性大腸菌感染症	
	腸チフス	
	パラチフス	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	
	その他の感染症 (学校医その他の医師において感染のおそれがあり出席停止の措置が必要と認める感染症)※	

※第２種については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
※第３種のその他の感染症については、「出席停止期間証明書」に限る。（診断書は無効）

③　忌引によるもの（会葬礼状等の証明書類が必要）※忌引の適用される親族と日数

・１親等の親族（父母）の場合は連続した７日間まで（休日を含む）

・２親等の親族（祖父母・兄弟姉妹）の場合は連続した３日間まで（休日を含む）

・３親等の親族（曾祖父母・伯叔父母・甥姪）の場合は１日のみ

④　その他

教務部長，各学部長，短大部長，各学科長などの協議の結果，やむを得ないと認められた場合。

Ⅸ　学籍異動

休学をする場合は，事前にクラス担任または指導教員に相談すること。

休学の願い出は，月日をさかのぼって願い出ることはできない。休学期間の取扱については，教務課で説明を受けること。

１．休学・復学

⑴　疾病その他やむを得ない事由により３か月以上修学することのできない者は，保証人連署のうえ学長に願い出，その許可を得て休学することができる。

疾病による場合は，医師の診断書を添付すること。

⑵　休学中は，当該期間の単位を修得することはできない。

⑶　休学できる期間は休学願を提出する月の翌月以降，月初めから１か月単位で，当該年度末までである。

⑷　休学の期間は，１年を超えることができない。ただし，特別な事由がある場合は，引続き更に１年まで延長することができる。

⑸　休学の期間は，通算して４年を超えることができない。

⑹　休学の期間は，学則第４条第２項の在学年限に算入しない。

⑺　休学期間中は，学納金の一部が免除される（学則第42条）。

⑻　休学期間満了の場合又は休学期間中にその事由が消滅したときは，学長の許可を得て復学することができる。

２．退学・再入学

⑴　退学をしようとする者は，その事由を詳記し，保証人連署のうえ，学長に願い出，その許可を得なければならない。

前期末退学を希望する者は，９月30日，後期末退学を希望する者は，３月31日までに事前に担任またはゼミ指導教員に相談をし承諾を得た上で教務課に申し出ること。

⑵　願いにより本学を退学した者又は学則第38条第１号により除籍された者が，再入学を希望するときは選考のうえ入学を許可することがある。

３．転学部・転学科

本学の他の学部に転学部または同一学部の他の学科に転学科を希望する者があるときは，選考のうえ許可することがある。

４．除　　籍

次に該当する者は，教授会の意見を聴き，大学教育研究評議会で審議し，学長が除籍する。

⑴　授業料その他の学納金の納付を怠り，督促してもなお納付しない者。

⑵　学則第４条第２項に定める在学年限を超えた者。

⑶　学則第36条第２項に定める休学期間を超えてなお修学できない者。

⑷　[illegible]

⑸　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。

５．復　　籍

[illegible]

Ⅹ　試　　験

単位を修得するためには，その授業科目を履修登録した上で，その授業を受け（予習・復習・課題などの時間を含む），かつ本学で施行する試験に合格しなければならない。ただし，授業料，その他納付金の未納者は受験できないことがある。

１．試験の方法

試験は，それぞれの授業科目に応じて筆記・口述・レポート・論文・作品の製作・実技等によって行う。

２．試験の種類

⑴　定期試験

定期末試験は，原則として定期試験期間内に行われる。ただし，必要に応じ，試験の日時・場所等の調整を行うことがある。

試験を実施する授業科目は，日時・実施方法等をあらかじめ担当教員から教務課へ連絡のあったもののみ掲示する。

各講義科目の出席日数が２／３以上ない場合は，単位認定に関わる各種試験の受験資格がなくなることがある。

〈授業科目の不合格発表〉

定期試験の不合格者については，再試験対象科目のみ教務課から学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示する。

⑵　追 試 験

追試験は，下記に示す病気その他やむを得ない事由により定期試験を受験できなかった者に対して行う。ただし，欠席当日を含め３日以内に教務課へ連絡すること。この場合，追試験は，原則として当該定期試験成績報告締切日時までに行うものとする。（成績報告締切日時は，教務課から学内に掲示する）

①　病気欠席（医師の診断書を提出のこと）

②　就職試験日時との重複（教務課の所定用紙にキャリアセンターの証明印を押したものを提出のこと）

③　忌引（父母は１週間以内，兄弟姉妹祖父母は３日間以内，曾祖父母，伯叔父母，甥姪は１日のみで，死亡を証明する書類（会葬礼状等）を提出のこと）

④　その他特別な事情により，教務部長が正当と認めた場合

（①～③の証明書類は，欠席の連絡日から１週間以内に教務課へ提出すること。）

⑶　再 試 験

・総合教養教育科目の必修科目（実習科目を除く）及び選択必修科目，外国語教育科目（英語科目のみ），専門教育科目の必修科目（演習・実習科目を除く）及び選択必修科目は再試験を実施する。ただし，卒業特別講義については別に定める。

・総合教養教育科目の選択科目は再試験を実施しない。

・演習・実習科目及び専門教育科目の選択科目については，各授業担当教員の指示に従うこと。（再試験を受験する場合は必ず再試験手続きを行うこと）

・追試験の項目に示す病気その他やむを得ない事由（①～④）により再試験を受験できなかった者に対しては，再度，再試験を実施する。ただし，欠席当日を含め３日以内に教務課へ連絡すること。再試験は，原則として再試験成績報告締切日時までに受験しなければならない。（再試験成績報告締切日時は，教務課から学内に掲示する）

〈再試験手続〉

教務課所定の用紙に必要事項を記入し，押印の上，受験手数料１科目1,000円を添えて出願受付期間内に教務課へ申し込むこと。

再試験の日時は教務課より学内に掲示する。

再試験の不合格者については，教務課より学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示する。

⑷　試験結果の通知

各試験の結果については，教務課から各学生に通知する。

３．レポートの提出

試験にかわるレポートの提出方法は，次の通りである。ただし，専門科目におけるレポート等の提出については，担当教員の指示に従い，所定の様式で指定された場所に期日までに提出すること。

⑴　本人が指定された場所（担当教員または教務課）に直接提出すること。

(2) 字数や表紙の有無などレポートの様式については，授業科目担当者の指示に従ってください。

(3) 一度提出したレポートの変更訂正は認めないので提出前に十分注意すること。

(4) 提出の締切日時は厳守すること。(事務受付時間は月曜日から金曜日の午前９時から午後４時45分まで)

４．試験に関する注意事項

(1) 試験の欠席

試験を欠席する場合は，欠席当日を含め３日以内（土・日は除く）に必ず教務課へ電話で連絡すること。（TEL　086－271－8120）

※欠席連絡がない場合は，追試験の対象とならない。連絡方法は電話に限る。

(2) 受験資格者以外の受験の禁止

受験資格のない者（当該科目を履修登録していない者など）は受験できない。万一間違えて受験してもその成績は無効となる。

(3) 学生証の呈示

学生証のない者は受験できない。学生証は試験中，机上に呈示すること。

試験当日，学生証を忘れた者は，教務課で仮学生証（当日のみ有効）の交付を受けること。

(4) 座席の指定

試験室では指定された席に着くこと。

席が指定されていない場合は監督者の指示に従う。

(5) 所持品について

机上に置くことが出来る物は，持ち込みを許可されたものと筆記用具に限る。それ以外のものは各自の足下に置くこと。(原則として下敷きは許可しない)

スマートフォン・携帯電話については，電源を切り机上に置くこと。

(6) 答案持ち出しの禁止

試験室に入室した者は，必ず答案を提出すること。

無断で持ち帰ることは許されない。

(7) 遅刻及び退出

試験開始より20分経過後は入室できない。

監督者が必要と認めれば，試験開始後30分を経過したのち退出することが出来る。ただし，退出後の再入室は出来ない。

(8) 試験完了後の入室

試験が完了しても，答案回収の整理がすむまで試験室への入室は禁止する。

５．試験中の不正行為（P.185頁参照）

試験中，不正な行為が確認された場合，当該授業科目の試験日を含め，以後の受験を停止したうえ，これを学内に公示する。

不正行為をした者の当該学年における通年履修科目はすべて０点とする。半期の科目については不正行為の行なわれた学期に履修したものを０点とする。

Ⅺ　単位の修得及び学業成績

1．授業科目の授業を受け，かつ試験もしくはその他の方法による学習効果の判定において合格した者は，その授業科目の課程を修了したものと認められ，所定の単位が与えられる。

2．学業成績は，100点満点とし，60点以上を合格，60点未満を不合格とする。

3．成績の評語は，以下の通りとする。

⑴　2011年度以降入学生

点　　数	100～90	89～80	79～70	69～60	59以下	
成 績 証 明 書	秀	優	良	可	記載なし（不可）	
成　　績　　表	S	A	B	C	D	E
再試験受験資格					有	無

⑵　2010年度以前入学生

点　　数	100～80	79～70	69～60	59以下	
成 績 証 明 書	優	良	可	記載なし（不可）	
成　　績　　表	A	B	C	D	E
再試験受験資格				有	無

4．再試験による成績は，最高60点までとする。

5．合格点を得た授業科目を再度受験することは許されない。

6．成　Hu ĭ ŭ Dz ˆ ĂŘY è Ğ ĭ ŭ ¸ DzHu ğ ń ´ˆ ¨Ḥ Dz ˆ ĂŘY

GPA（Grade Point Average）制度について

本学では，GPA制度を導入している。GPAとは，授業ごとの成績評価（(秀)，優，良，可，不可）に対応する点数（GP：Grade Point）を付与して，１単位あたりの平均値を算出し一定水準に到達しているかどうかを評価する制度のことである。

◎　GPA制度の目的

1．成績不振の学生を早期に発見し，担任制度や科目担当教員による適切な支援・指導を行う。

2．GPA評価により，自らの成績を客観的に自己評価し，学習意欲の向上を図る。

3．修得単位数だけでなく，GPA評価により個々の科目のレベルアップを図るよう喚起する。

4．GPAを目安にして，履修登録科目数の自主規制を促し，目標達成のための計画的履修を促す。

5．標語評価に加え，厳格なGPA評価により，総合的な学力の向上及び質の保証を図る。

◎　Grade Point（GP）は，以下の通りとする。

GPA制度による成績評価				
成　　績 （評点）	評　　語 （成績証明書）	標　　語 （成績表）	G　　P	判　　定
90～100点	秀	S	4	合　格
80～ 89点	優	A	3	
70～ 79点	良	B	2	
60～ 69点	可	C	1	
0～ 59点	不可	D・E	0	不合格

（2010年度以前入学生）

GPA制度による成績評価				
成　　績 （評点）	評　　語 （成績証明書）	標　　語 （成績表）	G　P	判　　定
80～100点	優	A	3.5	合　格
70～ 79点	良	B	2	
60～ 69点	可	C	1	
0～ 59点	不可	D・E	0	不合格

（注）E判定で不可になった場合は，再試験受験の資格がない。

◎　GPAの算出方法

$$\text{GPA}=\frac{\text{（履修登録科目で得たGP×その科目の単位数）の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

対象科目については，各学部で定めるものとし，履修指導の際に説明する。

◎　GPAの利用法

GPAは，成績証明書や成績表には記載されず，別途配付する予定である。

GPAによって学習状況の把握ができる。例えば，GPAが２以下の場合は，それぞれの科目で期待されている達成度よりも低い状態が多いことを示しており，奮起が必要である。また，前の学期よりもGPAが下がっていれば，学習上に何らかの問題がある。このように，学期毎のGPA値を見ながら，自主的かつ意欲的な履修計画に利用できる。

GPAは，教員による修学指導の他，奨学金，表彰等の対象者の選考に利用されることがある。

◎　履修中止制度

一定期間受講し，「授業内容が期待したものではない」，「授業を理解するのに知識が不足している」等の理由により，履修を取り止めることが適当と判断した科目については，その当該科目の履修中止が認められることがある。ただし，必修科目，特定科目，集中講義科目や各学部･学科で指定した科目は，履修中止の対象とはならない。

履修中止の申請期間は，授業開始２週目終了前後の１週間を予定している。指示された期間内に教務課で手続きを行うこと。その場合テキストの返品は認められない。履修中止とした科目はGPA算出の対象とならないが，申請手続きをせずに履修放棄した場合は，その科目は不合格（GP値は０点）となり，GPA値が下がる。また，履修中止した科目の単位数は，履修登録上限単位数に含まれるので，計画的な履修を心がけなければならない。

Ⅻ　単位互換制度

本学では，大学コンソーシアム岡山との間に単位互換協定を結んでおり，下記に示す授業科目を４年間で10単位まで履修できる。これらの科目を修得した場合，卒業要件単位の自由選択として認定することができる。ただし，卒業に必要な単位数のうち定められている単位数は就実大学で開講されている科目から修得しなければならない。履修希望者は，オリエンテーション期間行事表を確認し，説明会に必ず出席すること。履修申込期間を厳守のうえ，本学教務課に申し込むこと。

履修科目等の詳細は，「大学コンソーシアム岡山」のホームページ
http://www.consortium-okayama.jpを参照，または教務課へたずねること。

XIII　文部科学大臣が定める学修による単位認定

本学に入学以前又は以後に，下表に示した検定試験等で一定の成績を修めた者に対し，申請に基づいて上限４単位まで認定を行う。

試験の種類＼認定単位数	２　単　位	４　単　位
実用英語技能検定試験（英検）	準１級	１級
TOEFL PBT TOEFL CBT（Test of English as a Foreign Language） TOEFL iBT	520～599点 190～249点 68～ 99点	600～677点 250～300点 100～120点
TOEIC（Test of English for International Communication）	620～859点	860～990点

単位認定申請書　提出締切：（前期）４月の履修登録期間

（後期）９月の後期追加登録期間

※検定試験合格に基づく英語科目の認定については，English Reading Ⅰ・Ⅱ，English Composition Ⅰ・Ⅱのうち，いずれか上限４単位までとする。

※合格証明書又は成績証明書を添付のこと

提出先：教務課

XIV　海外研修制度

１．海外語学研修

本学が企画する海外語学研修は，次のとおりである。（薬学部においては単位は認定されないが，参加は可能）

研修先および期間については，掲示をよく確認すること。

研修先：⑴　英国　カンタベリー・クライスト・チャーチ大学　（約３週間）

⑵　アメリカ　ハワイ大学マノア校　（約３週間）

⑶　オーストラリア　クイーンズランド大学　（約３週間）

⑷　台湾　清華大学　（約２週間）

⑸　韓国　祥明大学校　（約２週間）

参加資格：①通常の学生生活を送るのに支障のない健康状態であること

②授業出席率は80％以上であること

手　続：科目としての履修登録は行わず，「単位認定に関わる海外研修申込書」を総合受付カウンターに提出してください（研修申込書はＲ館１階総合受付カウンターに置いてあります）。

掲出期日については，掲示をよく確認すること。

①　単位認定：短期海外研修終了後，科目の履修登録及び単位認定がなされる。

②　海外研修２単位は履修登録上限単位数40単位（諸課程に関する科目の単位数は除く）に含まない。

２．薬学海外研修（専門教育科目【アドバンスト科目】）

研修先および期間については，掲示をよく確認すること。

研修先：オーストラリア　クイーンズランド大学　ICTE-UQ（Institute of Continuing & TESOL Education, The University of Queensland）　［約２週間］

参加資格：通常の学生生活を送るのに支障のない健康状態であること。

詳細は薬学部履修要覧を参照すること。

XV　クラス担任

学　　年	ク　　ラ　　ス　　担　　任
１～６年	１年次のオリエンテーション時にクラス担任表を配付する。１年次のクラス担任は，３年次まで継続する。また，４～６年次の担任は，４年次進級時に決定する。

XVI　（2015～2017年度生）卒業論文実習，実務実習及び共用試験

１．卒業論文実習学生の配属

４年次へ進級した者は，特定の研究室へ配属され，担当教員の指導により４～６年次に卒業論文実習を行う。その配属は，学生の希望をもとにして決定する。

２．実務実習（病院実習及び薬局実習）

５年次に，病院実習及び薬局実習をそれぞれ少人数のグループに分かれて行う。実習先及び実習時期は，学生の希望及び居住地をもとに決定する。

３．共用試験

実務実習を受けるためには，必要な一定の知識が備わっているかを評価するコンピュータ支援基礎学力試験（ＣＢＴ）及び技能や態度が備わっているかを評価する客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）の共用試験に合格しなければならない。

薬学教育が６年制に延長されたことに伴い，薬学生は卒業前の実務実習において，薬剤師の指導・監督の下に，薬剤師としての実践能力を十分に修得しておくことが求められた。しかし，「薬剤師でない者は，販売又は授与の目的で調剤してはならない」と規定した薬剤師法第19条に基づけば，薬剤師資格を有さない薬学生が調剤行為をすることは法律に違反する可能性が生じる。この違法性を阻却するために，全国薬科大学長・薬学部長会議のもとに設置された薬学共用試験センターが，大学間格差のない参加型実習を行う予定の薬学生を対象に，必要な知識，技能及び態度を確認する共用試験を実施する。その方法は，主として知識を評価するCBT（Computer-based Testing）と，主として技能と態度を評価するOSCE（Objective Stuctured Clinical Examination）に分けられる。この両試験において合格した薬学生は，共用試験合格者として，病院や薬局で実習を行う水準にあることが保証される。

CBT：知識及び問題解決能力を評価する客観試験

CBTはコンピューターを用いた試験であり，薬学生の知識を評価するために，多肢選択試験形式で，ディスプレイ上の選択問題を順次，解答していくものである。薬学教育モデル・コアカリキュラムと実務実習モデル・コアカリキュラムに基づき，広範にわたる内容から310問が出題される。

OSCE：技能・態度を評価する客観的臨床能力試験

OSCEは，学習者の基本的な臨床技能及び態度（習慣）を客観的に評価するために開発された評価方法であり，「実地試験」，「シミュレーションテスト」に相当する。OSCEでは「ステーション」と呼ばれるいくつかの試験会場が用意され，各ステーションで個別の領域における臨床能力を評価するための課題が出される。受験者は合図に従って各ステーションを順に巡り，課題表に示された項目を定められた時間内に実施する。

XⅦ　（～2014年度生）卒業論文実習，実務実習及び共用試験

１．卒業論文実習学生の配属

４年次へ進級した者は，特定の研究室へ配属され，担当教員の指導により４～６年次に卒業論文実習を行う。その配属は，学生の希望をもとにして決定する。

２．実務実習（病院実習及び薬局実習）

５年次に，病院実習及び薬局実習をそれぞれ少人数のグループに分かれて行う。実習先及び実習時期は，学生の希望及び居住地をもとに決定する。

３．共用試験

実務実習を受けるためには，必要な一定の知識が備わっているかを評価するコンピュータ支援基礎学力試験（ＣＢＴ）及び技能や態度が備わっているかを評価する客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）の共用試験に合格しなければならない。

薬学教育が６年制に延長されたことに伴い，薬学生は卒業前の実務実習において，薬剤師の指導・監督の下に，薬剤師としての実践能力を十分に修得しておくことが求められた。しかし，「薬剤師でない者は，販売又は授与の目的で調剤してはならない」と規定した薬剤師法第19条に基づけば，薬剤師資格を有さない薬学生が調剤行為をすることは法律に違反する可能性が生じる。この違法性を阻却するために，全国薬科大学長・薬学部長会議のもとに設置された薬学共用試験センターが，大学間格差のない参加型実習を行う予定の薬学生を対象に，必要な知識，技能及び態度を確認する共用試験を実施する。その方法は，主として知識を評価するCBT（Computer-based Testing）と，主として技能と態度を評価するOSCE（Objective Stuctured Clinical Examination）に分けられる。この両試験において合格した薬学生は，共用試験合格者として，病院や薬局で実習を行う水準にあることが保証される。

CBT：知識及び問題解決能力を評価する客観試験

CBTはコンピューターを用いた試験であり，薬学生の知識を評価するために，多肢選択試験形式で，ディスプレイ上の選択問題を順次，解答していくものである。薬学教育モデル・コアカリキュラムと実務実習モデル・コアカリキュラムに基づき，広範にわたる内容から310問が出題される。

OSCE：技能・態度を評価する客観的臨床能力試験

OSCEは，学習者の基本的な臨床技能及び態度（習慣）を客観的に評価するために開発された評価方法であり，「実地試験」，「シミュレーションテスト」に相当する。OSCEでは「ステーション」と呼ばれるいくつかの試験会場が用意され，各ステーションで個別の領域における臨床能力を評価するための課題が出される。受験者は合図に従って各ステーションを順に巡り，課題表に示された項目を定められた時間内に実施する。

授業科目及び履修方法（2015～2017年度生）

Ⅰ　総合教養教育科目，外国語教育科目 …… 33

Ⅱ　専門教育科目 …… 41

Ⅲ　カリキュラム …… 45
・カリキュラムマップ
・2015～2017年度カリキュラムの系統性と順次性（分野別学修の流れ）
・2015～2017年度カリキュラム（医療人教育）
・カリキュラムツリー（科目間の順次性と関連図）
・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（2015～2017年度）の
概要と対応科目一覧（2015年度入学生以降）

Ⅳ　他学部開放科目一覧 …… 62

Ⅰ　総合教養教育科目，外国語教育科目（2016・2017年度生）

(1)　総合教養教育科目（2016・2017年度生）

	授業科目	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人文・社会科学	文章表現e	2	○												講義	人文・社会科学から4単位以上履修すること
	口頭表現e	2		○											講義	
	学生生活概論(14～)	2	○												講義	
	こころの健康科学	2		○											講義	
	現代人とこころの障害 a	2	○												講義	
	漢詩文の表現と心	2	○												講義	
	漢詩文の表現と思想	2		○											講義	
	茶道 1a・b・c (14～)	1	○												演習	
	茶道 2a・b・c (14～)	1		○											演習	
	日本文化論 1	2	○												講義	
	日本文化論 2	2		○											講義	
	ポピュラー音楽の歴史	2	○												講義	
	現代の哲学と思想	2		○											講義	
	人類学の世界と歴史	2	○												講義	
	アジアの民族誌	2		○											講義	
	地理学の世界と歴史	2	○												講義	
	心理学1(心理学の世界と歴史(～12))	2	○												講義	
	心理学2(現代人のこころと行動(～12))	2		○											講義	
	発想学(14～)	2		○											講義	
	現代人の倫理と価値観	2		○											講義	
	女性の生活と歴史	2	○												講義	
	現代の女性環境	2		○											講義	
	人権の現代的課題 a・b	2		○											講義	
	法学（社会生活と法（～12)）	2		○											講義	
	日本国憲法	2	○												講義	
	社会学の世界と歴史	2	○												講義	
	社会学概論A(＝現代社会の諸問題)	2		○											講義	
	社会学概論B(＝医療と社会題(～12))	2	○												講義	
	基礎経済学(経済と生活(～12))	2	○												講義	
	経済学概論(現代経済論(～12))	2		○											講義	
	基礎経営論	2		○											講義	

	授業科目	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人文・社会科学	基礎会計学（15～）	2	○												講義	
	基礎マーケティング論	2		○											講義	
	金融システムと生活 -グローバルな視点から世界を見る-(14～)	2	○												講義	
	生活に役立つ統計（15･14のみ）	2		○											講義	
	マスメディア論	2	○												講義	
	社会生活と儀礼(14～)	2													講義	
	現代都市の魅力診断	2	○												講義	
	自然地理学	2		○											講義	
自然科学	健康と食品	2	○												講義	
	健康と栄養	2		○											講義	
	化学の世界と歴史	2		○											講義	
	化学と環境問題	2	○												講義	
	生命と自然環境	2		○											講義	
	人体の構造と機能	2	○												講義	
	生命機能のプログラム	2	○												講義	
	生命と生活の化学	2		○											講義	
	病気と環境	2		○											講義	
	いきものと物質	2		○											講義	
	くすりと社会	2	○												講義	
	情報と社会 a(14～)	2	○												講義	
	情報リテラシー	1	○												演習	
	リメディアルサイエンス	1	○												演習	
	基礎数学演習	1	●												演習	
	基礎物理学演習	1	●												演習	
	基礎生物学演習	1	●												演習	
	基礎化学演習	1	●												演習	
スポーツ	スポーツと健康 b	2	○												講義	スポーツから１単位以上履修すること （人文クラス指定）
	スポーツと社会	2		○											講義	
	スポーツ 1 h･i･j	1	○												実習	
	スポーツ 2	1													実習	
	スポーツ 3 a･b	1	○												実習	
	スポーツ 4 a･b･c	1		○											実習	
	日本事情 1	2	○												講義	外国人留学生 帰国子女適用
	日本事情 2	2		○											講義	
	日本事情 3	2	○												講義	
	日本事情 4	2		○											講義	
	キャリアデザイン論 A	2	○												講義	
	キャリアデザイン論 B	2		○											講義	
	キャリアデザイン論 C	2		○											講義	

（注１）自然科学の必修科目４単位，人文･社会科学，スポーツ，自然科学の選択科目の中から11単位以上（人文･社会科学４単位，スポーツ１単位を含む）を修得すること。（情報リテラシーのクラス分けは別途掲示する。）
（注２）進級の要件となる単位数は16頁で確認すること。
（注３）授業科目名の後のアルファベット（小文字）は，同一授業科目の分割を示す。
（注４）●：必修科目，○：選択科目

Ⅰ　総合教養教育科目，外国語教育科目（2015年度生）

(1)　総合教養教育科目（2015年度生）

	授業科目	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	5年次 前期	5年次 後期	6年次 前期	6年次 後期	授業形態	備考
人文・社会科学	文章表現e	2	○												講義	人文・社会科学から４単位以上履修すること
	口頭表現e	2		○											講義	
	学生生活概論(14～)	2	○												講義	
	こころの健康科学	2		○											講義	
	現代人とこころの障害 a	2	○												講義	
	漢詩文の表現と心	2	○												講義	
	漢詩文の表現と思想	2		○											講義	
	茶道　1a・b・c (14～)	1	○												演習	
	茶道　2a・b・c (14～)	1		○											演習	
	日本文化論 1	2	○												講義	
	日本文化論 2	2		○											講義	
	ポピュラー音楽の歴史	2	○												講義	
	日本人の思想	2		○											講義	
	ヨーロッパ人の思想	2		○											講義	
	アジア人の思想	2	○												講義	
	日本美術史	2		○											講義	
	西洋美術史	2	○												講義	
	東洋美術史	2	○												講義	
	死生観の歴史	2	○												講義	
	現代の哲学と思想	2		○											講義	
	人類学の世界と歴史	2	○												講義	
	アジアの民族誌	2		○											講義	
	地理学の世界と歴史	2	○												講義	
	心理学1(心理学の世界と歴史(～12))	2	○												講義	
	心理学2(現代人のこころと行動(～12))	2		○											講義	
	発想学(14～)	2		○											講義	
	倫理と価値観の諸相	2	○												講義	
	現代人の倫理と価値観	2		○											講義	
	女性の生活と歴史	2	○												講義	
	現代の女性環境	2		○											講義	
	人権の現代的課題 a・b	2		○											講義	
	法学（社会生活と法（～12)）	2		○											講義	
	日本国憲法	2	○												講義	
	社会学の世界と歴史	2	○												講義	
	社会学概論A(＝現代社会の諸問題)	2		○											講義	
	社会学概論B(＝医療と社会題(～12))	2	○												講義	
	基礎経済学(経済と生活(～12))	2	○												講義	
	経済学概論(現代経済論(～12))	2		○											講義	
	基礎経営論	2		○											講義	

	授業科目	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人文・社会科学	基礎会計学（15～）	2	○												講義	
	基礎マーケティング論	2		○											講義	
	金融システムと生活(14～)	2	○												講義	
	生活に役立つ統計（15･14のみ）	2		○											講義	
	マスメディア論	2	○												講義	
	社会生活と儀礼(14～)	2													講義	
	現代都市の魅力診断	2	○												講義	
	自然地理学	2		○											講義	
自然科学	健康と食品	2	○												講義	
	健康と栄養	2		○											講義	
	化学の世界と歴史	2		○											講義	
	化学と環境問題	2	○												講義	
	生命と自然環境	2		○											講義	
	人体の構造と機能	2	○												講義	
	生命機能のプログラム	2	○												講義	
	生命と生活の化学	2		○											講義	
	病気と環境	2		○											講義	
	いきものと物質	2		○											講義	
	くすりと社会	2	○												講義	
	情報と社会 a(14～)	2	○												講義	
	情報リテラシー	1	○												演習	
	リメディアルサイエンス	1	○												演習	
	基礎数学演習	1	●												演習	
	基礎物理学演習	1	●												演習	
	基礎生物学演習	1	●												演習	
	基礎化学演習	1	●												演習	
スポーツ	スポーツと健康 b	2	○												講義	スポーツから１単位以上履修すること（人文クラス指定）
	スポーツと社会	2		○											講義	
	スポーツ 1 h･i･j	1	○												実習	
	スポーツ 2	1													実習	
	スポーツ 3 a･b	1	○												実習	
	スポーツ 4 a･b･c	1		○											実習	
	日本事情 1	2	○												講義	外国人留学生帰国子女適用
	日本事情 2	2		○											講義	
	日本事情 3	2	○												講義	
	日本事情 4	2		○											講義	
	キャリアデザイン論 A	2	○												講義	
	キャリアデザイン論 B	2		○											講義	
	キャリアデザイン論 C	2		○											講義	

（注１）自然科学の必修科目４単位，人文･社会科学，スポーツ，自然科学の選択科目の中から11単位以上（人文･社会科学４単位，スポーツ１単位を含む）を修得すること。（情報リテラシーのクラス分けは別途掲示する。）
（注２）進級の要件となる単位数は16頁で確認すること。
（注３）授業科目名の後のアルファベット（小文字）は，同一授業科目の分割を示す。
（注４）●：必修科目，○：選択科目

＜就実大学教養教育の目標＞

教養カリキュラムポリシー

グローバル社会で活躍できるように学問の裾野を広げ，様々な角度から物事を見ることのできる能力，自主的，総合的に考え，適確に判断する能力ならびに豊かな人間性を養い，自分の知識や人生を社会との関係で位置づけることのできる人材を育てる。

⑴　関心・意欲・態度を身につける

①　違った価値観や伝統，制度を持った異文化の相互関係を知り，深い認識を持つ。

②　人間や社会，自然，環境について深い関心を持ち，豊かな感受性を身につける。

③　自らの洞察を深め，生涯にわたって自己研鑽に努める態度を身につける。

④　高い倫理観と責任感を持ち，他者と協力して仕事を進める意欲・態度を養う。

⑵　知識・理解力を深め，思考・判断力を身につける

⑤　幅広い領域の知識を理解して，専門分野での学修に必要な基礎的知識と複合的な視点を持つ。

⑥　現代社会に関して多面的な知識・理解を持ち，体系的に考え，自らの見解を形成する。

⑦　健康で文化的な生活を営むために必要な知識と方法を修得し，自らの生活の質を高める。

⑧　学修の成果を評価・判断し，自らの生活や社会に還元する柔軟な発想力を身につける。

⑶　技能・表現力を身につける

⑨　日常生活に必要な，聞く・話す・読む・書く力を修得し，正確な意思の疎通を図る。

⑩　少なくとも一つの外国語を用いて，基礎的なコミュニケーションを行う。

⑪　情報及び情報手段を選択し，適切に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。

⑫　知識・技能・情報を活用して，自ら構想・創造・表現する力を身につける。

4　総合教養教育科目カリキュラムマップ

		授　業　科　目	教養教育の目標											
			関心･意欲･態度				知識・理解力，思考・判断力				技能・表現力			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
主題科目	現代社会を生きる	現代都市の魅力診断	○	○				○						○
		金融システムと生活	○					○						
		情報と社会		○				○					○	
		社会生活と儀礼	○					○					○	
		生活に役立つ統計		○				○					○	
	グローバルな社会で活躍する	人類学の世界と歴史												
		アジアの民族誌												
		地理学の世界と歴史	○	○			○	○		○				
	いのちと健康を考える	こころの健康科学			○				○					○
		現代人とこころの障害		○				○	○					
		現代の哲学と思想		○				○						○
		病気と環境		○			○		○					
		スポーツと健康			○			○	○					
	人生とキャリアデザイン	キャリアデザイン論												
		社会学概論（社会の成り立ち）		○				○		○				
		基礎経営論（お金と生活）			○					○		○		
		マスメディア論			○			○					○	
		学生生活概論				○			○		○			
	豊かな感性を育む	茶道 1・2		○					○					○
		ポピュラー音楽の歴史		○				○	○					
		発想学（アイデアの生み出し方）			○			○						○
		スポーツと社会		○					○		○			
一般教養科目	人文科学系科目	心理学1		○	○									
		心理学2		○	○				○					
		現代人の倫理と価値観		○	○									
		日本文化論 1	○	○				○						
		日本文化論 2	○				○				○			
		女性の生活と歴史	○											
		漢詩文の表現と心	○	○										
		漢詩文の表現と思想	○		○									
		死生観の歴史		○			○							○
		文章表現												
		口頭表現			○			○						○
	社会科学系科目	人権の現代的課題		○		○		○						
		法学				○		○	○					
		日本国憲法	○			○		○						
		社会学の世界と歴史		○				○		○				
		基礎経済学			○			○						○
		経済学概論			○			○						○
		基礎会計学			○		○						○	
		現代の女性環境	○					○	○					
		自然地理学	○	○			○							○
		現代日本の企業						○		○			○	
		基礎マーケティング論			○					○		○		

		授　業　科　目	教養教育の目標											
			関心･意欲･態度				知識・理解力，思考・判断力				技能・表現力			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
一般教養科目	自然科学系科目	健康と食品			○				○	○				
		健康と栄養			○				○	○				
		化学の世界と歴史		○			○		○					
		化学と環境問題		○			○		○					
		生命と自然環境		○					○				○	
		人体の構造と機能		○			○		○					
		生命機能のプログラム		○			○		○					
		生命と生活の化学		○					○				○	
		いきものと物質		○		○			○					
	スポーツ科目	くすりと社会					○		○					
		スポーツ１～４				○			○					○
	情報科目	コンピューターリテラシー											○	
		情報と表現								○			○	○
		情報と文化					○		○				○	
		情報処理演習１											○	○
		情報処理演習１			○				○				○	
		情報処理演習２											○	○
	技能科目・その他	書道 １・２			○		○							○
		インターンシップ１・２			○	○								
		漢字検定 １・２			○									
		異文化コミュニケーション 1～４		○	○						○	○		
		日本事情１～４	○								○		○	

⑵ 外国語教育科目（2015～2017年度生）

	授業科目	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	5年次 前期	5年次 後期	6年次 前期	6年次 後期	授業形態	備考
外国語	Oral Communication Ⅰ f～h	1	○												演習	3クラス
	Oral Communication Ⅱ f～h	1		○											演習	3クラス
	English Composition Ⅰ f～h	1	○												演習	3クラス
	English Composition Ⅱ f～h	1		○											演習	3クラス
	English Reading Ⅰ f～h	1	○												演習	3クラス
	English Reading Ⅱ f～h	1		○											演習	3クラス
	フランス語文法入門1 c	1	○												演習	
	フランス語文法入門2	1													演習	（人文クラス指定）
	フランス語講読入門1	1													演習	（人文クラス指定）
	フランス語講読入門2 c	1		○											演習	
	ドイツ語文法入門1	1	○												演習	
	ドイツ語文法入門2	1		○											演習	
	ドイツ語講読入門1	1	○												演習	
	ドイツ語講読入門2	1		○											演習	
	中国語文法入門1 c	1	○												演習	
	中国語文法入門2	1													演習	（人文クラス指定）
	中国語講読入門1	1													演習	（人文クラス指定）
	中国語講読入門2 c	1		○											演習	
	ハングル文法入門1 c	1	○												演習	
	ハングル文法入門2	1													演習	（人文クラス指定）
	ハングル講読入門1	1													演習	（人文クラス指定）
	ハングル講読入門2 c	1		○											演習	
	日本語1	1	○												演習	外国人留学生帰国子女適用
	日本語2	1		○											演習	外国人留学生帰国子女適用
	日本語3	1	○												演習	外国人留学生帰国子女適用
	日本語4	1		○											演習	外国人留学生帰国子女適用

英語を6単位履修すること

（注1）外国語は6単位以上を修得すること。（英語のクラス分けは別途掲示する。）
（注2）進級の要件となる単位数は16頁で確認すること。
（注3）授業科目名の後のアルファベット（小文字）は，同一授業科目の分割を示す。
（注4）○：選択科目

Ⅱ　専門教育科目（2015～2017年度生）

	授業科目	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	5年次 前期	5年次 後期	6年次 前期	6年次 後期	授業形態	備考
薬学総合教育科目	薬学への招待	2	●												講義	
	医療倫理学	1		●											講義	
	初年次ゼミナール	1	●												演習	
	サイエンスコミュニケーション	1		●											講義	
	薬学対話演習	1			●										演習	
	基礎薬学英語	1				●									演習	
	医療薬学英語a～d	1					●								演習	
	基礎薬学総合演習	1								●					演習	
	卒業特別ゼミナール	1											●		講義	
	卒業特別講義a	10											●	●	講義	
	卒業特別講義b												●			
物理系薬学	化学物質の構造と性質	1		●											講義	
	溶液の性質と化学反応速度論	2			●										講義	
	熱力学と物理平衡	2				●									講義	
	医薬品分析化学	2		●											講義	
	臨床分析技術	2			●										講義	
	機器分析化学	2				●									講義	
	物理系薬学演習	1						●							演習	
化学系薬学	無機化学	1	●												講義	
	有機薬化学Ⅰ	2		●											講義	
	有機薬化学Ⅱ	2			●										講義	
	有機薬化学Ⅲ	2				●									講義	
	医薬品化学	1					●								講義	
	天然物化学	2		●											講義	
	生薬学	1			●										講義	
	化学系薬学演習	1						●							演習	

	授業科目		単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
生物系薬学	生化学Ⅰ		2		●											講義	
	生化学Ⅱ		2			●										講義	
	生体情報化学		2				●									講義	
	免疫学		2			●										講義	
	分子生物学		2			●										講義	
	遺伝子工学		2					●								講義	
	微生物薬品化学		2				●									講義	
	臨床微生物学		2					●								講義	
	生物系薬学演習		1						●							演習	
衛生薬学	公衆衛生学		2			●										講義	
	衛生化学		2				●									講義	
	食品衛生学演習		1					●								演習	
	環境毒性学		2						●							講義	
	環境衛生学		2							●						講義	
	衛生薬学演習		1								●					演習	
医療系薬学	人体構成学Ⅰ		2			●										講義	
	人体構成学Ⅱ		1				●									講義	
	病態生理学Ⅰ		2					●								講義	
	病態生理学Ⅱ		2						●							講義	
	薬理学Ⅰ		2				●									講義	
	薬理学Ⅱ		2					●								講義	
	薬理学Ⅲ		2						●							講義	
	薬理学演習		1							●						演習	
	薬物治療学Ⅰ		2						●							講義	
	薬物治療学Ⅱ		2							●						講義	
	薬物治療学演習		1								●					演習	
	生物薬剤学		2				●									講義	
	物理薬剤学		2					●								講義	
	薬物動態学		2					●								講義	
	薬物代謝学		2						●							講義	
	製剤学		2							●						講義	
	製剤機能論		1								●					講義	
	薬剤学演習		1								●					演習	

	授業科目	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	5年次 前期	5年次 後期	6年次 前期	6年次 後期	授業形態	備考
臨床系薬学	薬事関係法規	2							●						講義	
	新薬開発論	2								●					講義	
	医療統計学	2					●								講義	
	医薬品情報学	2						●							講義	
	薬局管理学演習	1					●								演習	
	臨床コミュニケーション演習	1						●							演習	
	薬剤師職能論	1							●						講義	
	調剤学	2						●							講義	
	医療薬学演習	1							●						演習	
	処方解析学Ⅰ	2							●						講義	
	処方解析学Ⅱ	2								●					講義	
	臨床薬学総合演習	1								●					演習	
アドバンスト科目	薬剤師と地域医療	1							○						講義	8単位以上選択必修
	臨床心理学	1				○									講義	
	看護学概論	1					○								講義	
	研究開発入門	1							○						講義	
	医療放射化学	1					○								講義	
	創薬化学	1					○								講義	
	細胞工学	1						○							講義	
	病態生化学	1					○								講義	
	生体機能調節学	1						○							講義	
	生体防御科学	1						○							講義	
	ゲノム科学	1						○							講義	
	感染症予防学	1								○					講義	
	未病薬学	1							○						講義	
	環境遺伝学	1								○					講義	
	免疫薬理学	1								○					講義	
	漢方薬学Ⅰ	1								○					講義	
	漢方薬学Ⅱ	1									○				講義	
	臨床疫学	1								○					講義	
	臨床動態学	1								○					講義	
	香粧品科学	1							○						講義	
	バイオ医薬品開発論	1									○				講義	
	レギュラトリーサイエンス	1									○				講義	
	専門薬剤師概論Ⅰ	1									○				講義	
	専門薬剤師概論Ⅱ	1									○				講義	
	フィジカルアセスメント	1									○				講義	
	薬学海外研修	2									○				実習	

授業科目			単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		授業形態	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学実習	基礎薬学実習（物理系・化学系）		1			●										実習	
	生命薬学実習Ⅰ（生化学・免疫学）		1				●									実習	
	生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）		1					●								実習	
	医療薬学実習（薬理・薬剤）		1						●							実習	
	実務実習事前学習		2							●						実習	
	病院・薬局実務実習		20									●				実習	
	卒業特別研究		10									●				実習	

（注１）必修科目の全ての単位と選択科目の中から８単位以上を修得すること。
（注２）基礎薬学英語，医療薬学英語のクラス分けは別途掲示する。
（注３）進級の要件となる単位数は16頁で確認すること。
（注４）授業科目名のアルファベット（小文字）は，同一授業科目の分割を示す。
（注５）●：必修科目，○：選択科目

Ⅲ　カリキュラム（2015～2017年度生）

カリキュラムマップ

＜薬学部カリキュラムポリシー＞

①医療人としての豊かな人間性，関心・意欲・表現力を身に付ける幅広い総合教養教育
②医療の目的を理解して，協調性と患者への思いやりを持った医療人としての倫理教育
③優れたコミュニケーション能力ならびに問題発見解決能力を養成するためのPBL教育
④薬学の基礎を科学として理解し，医療薬学専門教育に連結する薬学基礎及び準備教育
⑤医薬品の構造，反応性や特性，人体の構造や生理機能を理解するための基礎薬学教育
⑥健康と疾病に関わる栄養や環境要因を理解して，疾病を予防するための衛生薬学教育
⑦医薬品の動態や生体作用機序を理解し，最適な薬剤設計を考えるための応用薬学教育
⑧医薬品情報，病態と薬物療法を理解し，医薬品を適正に使用するための臨床薬学教育
⑨専門教育を深く理解するための薬学実習，実践能力を身に付けるための実務実習教育
⑩薬剤師に必要な研究マインドや問題発見解決能力を醸成するための薬学卒業研究教育
⑪最新の先端医療と科学の進歩を学び，キャリア形成に繋げるためのアドバンスト教育

＜薬学部ディプロマポリシー＞

(1)　豊かな人間性と倫理観を有し，医療の担い手として薬剤師の義務と法令を遵守できる
(2)　患者・生活者の立場や見解を理解し尊重して，適切な行動・態度をとることができる
(3)　薬の専門家として，医療情報を収集し，提供するためのコミュニケーションができる
(4)　チーム医療に積極的に参画し，協働して最適かつ最新な薬物治療を実践し提案できる
(5)　薬剤師に必要な科学の基本的知識･技能･態度に加え，その専門性を磨くことができる
(6)　薬物療法において，安全かつ有効な医薬品の使用を推進する薬剤師業務を実践できる
(7)　地域の保健・医療に参画・連携して，人々の健康増進，公衆衛生の向上に貢献できる
(8)　探究心，創造力，判断力で問題発見・解決能力を有し，医療薬学の進歩に貢献できる
(9)　生涯にわたり自己研鑽に努め，医療の高度化や多様性，社会環境の変化に対応できる
(10)　薬剤師の職能を理解し，新たな職能の発見や開拓，次世代の人材育成に貢献できる

科目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
薬学教養科目（必修）																					
基礎数学演習	○			○												○					
基礎物理学演習	○			○												○					
基礎化学演習	○			○												○					
基礎生物学演習	○			○												○					
薬学専門科目（必修）																					
薬学への招待	○	○	○	○								○	○								○
医療倫理学	○	○										○	○						○		
初年次ゼミナール		○	○	○								○	○	○							
サイエンスコミュニケーション	○	○	○									○	○	○							
薬学対話演習	○	○	○									○	○	○							
基礎薬学英語				○	○											○			○		
医療薬学英語			○	○	○									○		○					
基礎薬学総合演習	○			○												○					
卒業特別ゼミナール			○							○									○	○	
卒業特別講義					○	○	○	○								○					
化学物質の構造と性質					○											○					
溶液の性質と化学反応速度論					○											○					
熱力学と物理平衡					○											○					
医薬品分析化学					○											○					
臨床分析技術					○											○				○	
機器分析化学					○											○					
物理系薬学演習			○		○									○		○					
無機化学					○											○					
有機薬化学Ⅰ					○											○					
有機薬化学Ⅱ					○											○					

科目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
有機薬化学Ⅲ					○											○					
医薬品化学					○											○					
天然物化学					○											○					
生薬学					○											○					
化学系薬学演習			○		○									○		○					
生化学Ⅰ					○											○					
生化学Ⅱ					○											○					
生体情報化学					○											○					
免疫学					○											○					
分子生物学					○											○					
遺伝子工学					○										○	○					
微生物薬品化学					○										○	○					
臨床微生物学					○										○	○					
生物系薬学演習			○		○									○		○					
公衆衛生学						○												○			
衛生化学						○												○			
食品衛生学演習						○												○			
環境毒性学						○												○			
環境衛生学						○												○			
衛生薬学演習						○												○			
人体構成学Ⅰ					○											○					
人体構成学Ⅱ					○											○					
病態生理学Ⅰ					○		○	○							○	○					
病態生理学Ⅱ					○		○	○							○	○					
薬理学Ⅰ					○		○	○							○	○					
薬理学Ⅱ					○		○	○							○	○					
薬理学Ⅲ					○		○	○							○	○					
薬理学演習							○									○					
薬物治療学Ⅰ								○							○	○					
薬物治療学Ⅱ								○							○	○					
薬物治療学演習			○					○						○	○	○					
生物薬剤学							○									○					
物理薬剤学							○									○					
薬物動態学							○									○					
薬物代謝学							○									○					
製剤学							○									○					
製剤機能論							○									○					
薬剤学演習							○									○					
薬事関係法規		○										○						○			
新薬開発論	○	○										○	○								○
医療統計学								○								○	○				
医薬品情報学								○						○			○				
薬局管理学演習							○	○	○				○		○			○			

科目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
臨床コミュニケーション演習	○	○	○						○			○	○	○							
薬剤師職能論	○	○							○			○						○			○
調剤学								○	○							○					
医療薬学演習									○				○				○				
処方解析学Ⅰ									○						○						
処方解析学Ⅱ									○						○						
臨床薬学総合演習									○						○						
基礎薬学実習（物理系・化学系）					○				○							○			○		
生命薬学実習Ⅰ（生化学・免疫学）					○				○							○			○		
生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）					○	○			○							○		○	○		
医療薬学実習（薬理・薬剤）							○		○							○			○		
実務実習事前学習								○	○					○		○					
病院・薬局実務実習							○	○	○			○	○	○		○					
卒業特別研究										○									○		○
アドバンスト科目（選択）																					
薬剤師と地域医療		○	○								○		○	○				○			
臨床心理学	○	○										○	○	○							
看護学概論		○									○		○					○		○	
研究開発入門										○	○								○	○	○
創薬化学											○									○	
医療放射化学											○				○	○					
細胞工学											○									○	
病態生化学											○									○	
生体機能調節学											○									○	
生体防御科学											○									○	
ゲノム科学											○									○	
感染症予防学											○				○	○					
未病薬学						○					○							○			
環境遺伝学						○					○					○					
免疫薬理学											○					○					
漢方薬学Ⅰ											○					○					
漢方薬学Ⅱ											○					○					
臨床疫学						○		○		○	○			○		○					
臨床動態学							○				○				○	○					
香粧品科学							○				○					○					
バイオ医薬品開発論											○					○					
レギュラトリーサイエンス		○									○	○									
専門薬剤師概論Ⅰ											○					○					
専門薬剤師概論Ⅱ								○			○					○					
フィジカルアセスメント											○			○					○		
薬学海外研修										○	○									○	○

2015～2017年度カリキュラムの系統性と順次性（分野別学修の流れ）

分類	単位数											
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	5年前期	5年後期	6年前期	6年後期
総合教養教育科目	総合教養教育科目（選択）	主題科目：「現代社会を生きる」,「グローバルな社会で活躍する」,「いのちと健康を考える」,「人生とキャリアデザイン」,「豊かな感性を育む」（28科目含む） 一般科目：文章表現，口頭表現，生死観の歴史，心理学，日本国憲法，基礎経済学，健康と食品，化学と環境問題，いきものと物質，情報と社会，情報リテラシー他（41科目含む）										
	外国語科目											
	基礎数学演習											
	基礎物理学演習											
	基礎化学演習											
	基礎生物学演習											
薬学総合教育科目	薬学への招待											
		医療倫理学										
	初年次ゼミナール											
		サイエンスコミュニケーション										
			薬学対話演習									
				基礎薬学英語								
					医療薬学英語							
								基礎薬学総合演習				
											卒業特別ゼミナール	
											卒業特別講義	
物理系薬学		化学物質の構造と性質										
			溶液の性質と化学反応速度論									
				熱力学と物理平衡								
		医薬品分析化学										
			臨床分析技術									
				機器分析化学								
						物理系薬学演習						
化学系薬学	無機化学											
		有機薬化学Ⅰ										
			有機薬化学Ⅱ									
				有機薬化学Ⅲ								
					医薬品化学							
		天然物化学										
			生薬学									
						化学系薬学演習						
生物系薬学		生化学Ⅰ										
			生化学Ⅱ									
				生体情報化学								
			免疫学									
			分子生物学									
					遺伝子工学							
				微生物薬品化学								
					臨床微生物学							
						生物系薬学演習						
衛生薬学			公衆衛生学									
				衛生化学								
					食品衛生学演習							
						環境毒性学						
							環境衛生学					
								衛生薬学演習				
医療系薬学			人体構成学Ⅰ									
				人体構成学Ⅱ								
					病態生理学Ⅰ							
						病態生理学Ⅱ						
				薬理学Ⅰ								
					薬理学Ⅱ							
						薬理学Ⅲ						
							薬理学演習					
						薬物治療学Ⅰ						
							薬物治療学Ⅱ					
								薬物治療学演習				
				生物薬剤学								
					物理薬剤学							
					薬物動態学							
						薬物代謝学						
							製剤学					
								製剤機能論				
								薬剤学演習				
臨床系薬学							薬事関係法規					
								新薬開発論				
					医療統計学							
						医薬品情報学						
					薬局管理学演習							
						臨床コミュニケーション演習						
							薬剤師職能論					
						調剤学						
							医療薬学演習					
							処方解析学Ⅰ					
								処方解析学Ⅱ				
								臨床薬学総合演習				
実習科目			基礎薬学実習（物理系・化学系）									
				生命薬学実習1（生化学・免疫学）								
					生命薬学実習２（衛生・微生物）							
						医療薬学実習（薬理・薬剤）						
							実務実習事前学習					
									病院・薬局実務実習			
									卒業特別研究			
			アドバンスト科目（全26科目）：臨床心理学		看護学概論，医療放射化学，創薬化学，細胞工学， 病態生化学，生体機能調節学，生体防御科学，ゲノム科学		薬剤師と地域医療，研究開発入門，感染症予防学，未病薬学，環境遺伝学， 免疫薬理学，漢方薬学Ⅰ，臨床疫学，臨床動態学，香粧品科学		漢方薬学Ⅱ，バイオ医薬品開発論，レギュラトリーサイエンス，専門薬剤師概論Ⅰ， 専門薬剤師概論Ⅱ，フィジカルアセスメント，薬学海外研修			